

【資料5】

日田市小野地区中山

※写真はすべて無断転載掲載禁止

令和5年梅雨前線による大雨災害 大分県内の 対応状況について



社会福祉法人大分県社会福祉協議会
大分県災害ボランティア・福祉支援センター
副所長 森 美菜子

◆大分県内のボランティア活動状況

●中津市

活動期間	7/13～8/5のうち、3クールに分けて活動
被災地域	山国・耶馬溪・本耶馬溪
ボランティア募集	市内協定団体を中心に、市外個人ボランティアも募集
対応件数	46件
活動内容	土砂撤去、家財の運搬、畳上げ、流木対応 など
活動延べ人数	633人

●日田市 (8/4時点)

活動期間	7/13～8/20予定。基本、週末型で活動
被災範囲	小野・大鶴・夜明
ボランティア募集	市内ネットワーク団体、登録ボランティアを中心に募集
対応件数	36件
活動内容	床下等の土砂撤去、家財の搬出、畳上げなど
活動延べ人数	383人





※無断転載禁止



● 避難所支援について

<日田市>

避難期間	7/10~8/13
避難者数	最大20世帯34名
避難場所	日田市複合文化施設AOSE 大鶴振興センター 夜明振興センター



◆避難所支援について

- 大分県災害派遣福祉チーム（大分DWAT）が初出動。
- 1クール基本3名とし、3日間交代制で8クール活動。
- 7/15～7/31の17日間で延べ63名の隊員が派遣された。

相談
支援

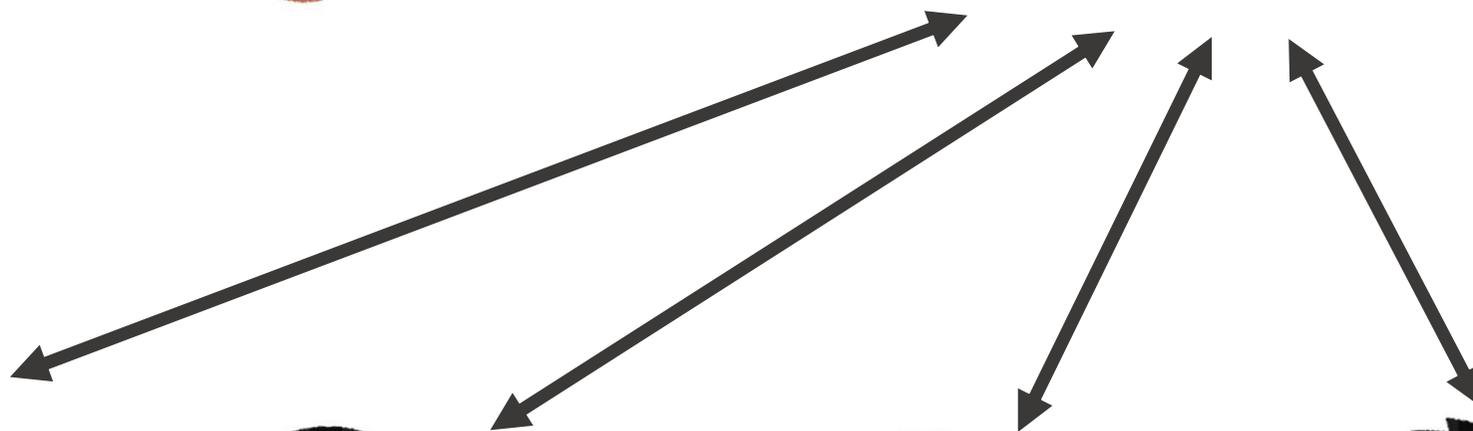
連携
調整

環境
改善

避難者



災害派遣福祉チーム (DWAT)



保健師



行政



社協



NPO・ボランティア団体等

相談支援の様子



連携調整の様子（保健師との打合せ・情報共有）



連携調整の様子（フードバンクおおいたへ物資調達）



連携調整の様子（布団、日用品の寄付調整）



天ヶ瀬旅館街から布団の寄付
(合計15組)



天ヶ瀬旅館街から急須、お椀の寄付

環境改善の様子（寄付された布団の設置）



<設置前>

天ヶ瀬旅館街から寄付いただいた布団を
避難者のベッドに設置。



<設置後>

環境改善の様子（段ボールベッドの組立設置）



環境改善の様子（生活環境改善としての体操）



◆ふりかえりと今後について

対応

- 災害ボランティアセンターは立ち上げず、普段のつながりを活かした支援の実施
- 大分DWAT初出動による避難所支援の実施

課題

- ボランティア募集に時間と労力がかかった
- 地元で対応できる範囲の見立てが難しかった
- 避難生活後のフォロー体制が弱かった

今後

- 災害ボランティアネットワークの機能強化
- 地元で活動できる人材の育成
- 受援力の強化
- 運営側の人材育成
- 地域支え合いセンターも含めた復興期の支援体制の確立
- 災害ケースマネジメントの実践に向けた体制強化

◆ 中間支援組織について

● 県外の状況

熊本県：くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）

佐賀県：佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）

宮崎県：宮崎県・県社協・NPO防災会議

● 佐賀災害支援プラットフォーム視察

- 佐賀県はH17年頃からNPO等の誘致事業に力を入れていて、県内に数多くのNPO等が存在。
- 災害時だけでなく、平時の活動から三者連携（行政・社協・NPO等）の体制が作られている。
- SPFは1つの団体だけでなく、約60団体が共同して成り立っており、連携がしやすい。



● 大分県での中間支援組織について（視察後に出た意見）

- 中間支援組織としてどこかの団体を位置付けたり、中間支援組織としての組織をわざわざ作るのではなく、既存の組織やネットワーク等を活かす方向で検討してみてはどうか。
- 他県と比較すると、本県はNPO等の地盤が弱いですが、企業や団体等とのつながりは強く、過去の災害においても連携した災害支援を行ってきた。
- まずは既存のつながりを災害支援分野でさらに強化し、情報共有や役割分担などの機能強化を図っていくことが重要では。